分野（1）
小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び
事業内容の改善方法に関する調査研究

研　究　課　題　名　：ぜん息キャンプの効果的な実践及び改善のための評価手法に関する調査研究

調査研究代表者氏名：新　宅　治　夫

評価コメント
・ぜん息キャンプの効果について継続性ありとの所見は意義がある。 ・唾液中のコチニン濃度と受動喫煙との関係について非常にクリアカットなデータが得られ、唾液中のコチニン濃度が受動喫煙の信頼できる指標になり得ることを示したのは一つの成果である。この成果を踏まえ、受動喫煙とぜん息症状との関係をさらに多くの症例について、正確に半定量的に解析することが望まれる。 ・NO測定がキャンプ参加者に対する行動変容に対するモチベーションになる可能性、キャンプの効果判定になる可能性はあると思うが、他の指標との関連性を十分分析して欲しい。 ・キャンプ終了後、eNO測定を設定して大学病院で定期的に経過観察したことは評価されるが、eNO測定だけでなく、一般医療機関でも活用できる呼吸機能やコントロールテストなどの指標も加えて、指導効果を評価すればよかった。今後、専門医と掛かりつけ医のネットワークを構築して、キャンプ参加者の治療管理がかかりつけ医で適確に遂行される仕組みを検討する必要がある。 ・キャンプの意義についての最近の成績、FeNOやIgEに対する影響は多くの因子による（重症度、治療等）ことが言われており、また受動喫煙に対する禁煙については多くの肯定的（禁煙が喘息に良好な結果を及ぼす）な意見が多く、今後さらなる本研究での新規性が望まれる。また、論文化が勧められる。 ・キャンプの効果的な実践及び改善のための研究としては成果が乏しいのではなかろうか。 ・eNO測定で見られたキャンプの効果が長続きしない原因について解明する必要がある（非参加の学童を比べてはどうか）。 ・受動喫煙例でのFeNO上昇の意義はさらに要検討。 ・ネオプテリンの測定の意義が必ずしも明らかではない。 ・ネオプテリン測定は新規性があるが、今後さらに例数を増やしてその有用性を検索する必要がある。